

[研究報告]

## 九州共立大学における100円朝食キャンペーンはどのように利用されているか －2014年度の利用実態分析－

原口 誠<sup>1)</sup>，池本 友洋<sup>2)</sup>

### 要 旨

本稿の目的は、九州共立大学の100円朝食キャンペーンの利用実態を分析するものである。九州共立大学は、2012年度から100円朝食を開始した。初年度とその翌年度は、学生は割引券を入手し、100円に割引券を添えて支払っていた。この支払方法は、経費精算を行う大学事務局に大きな負担となっていた。そのため、学生証を用いた簡易なシステムが導入された。支払時に学生証のバーコードをスキャンすることで利用者を特定し、利用日時と利用者をデータ化した。利用日時と利用者をデータ化することで、100円朝食の利用と学生の授業出席率や単位修得率との関係が分析できるようになった。

## Whether "100yen breakfast campaign" has been used how in Kyushu Kyoritsu University - An analysis of actual usage of 2014 -

Makoto HARAGUCHI<sup>1)</sup>，Tomohiro IKEMOTO<sup>2)</sup>

### Abstract

The purpose of this paper is to analyze "100 yen breakfast campaign 2014". Kyushu Kyoritsu University began "100 yen breakfast" at 2012. First year and next year, student get coupon and pay 100 yen with coupon. This way is very difficult for university affairs. So, new payment method has been introduced. To identify the person by scanning the bar code of student ID card at the time of payment, it is intended to data reduction. By the data of the usage date and time and the user, it has become possible to analyze the relationship between the use of "100 yen breakfast" and attendance and grades.

**KEY WORDS :** University students of breakfast, Student Support

---

1) 九州共立大学教務課  
2) 九州共立大学総務課

1) Kyushu Kyoritsu University, Academic Affairs  
2) Kyushu Kyoritsu University, Administration Affairs

## 1. 課題

近年、朝食をとらない学生が多い現状<sup>1)</sup>を改善しようと、学生支援の一環として大学の食堂で安価な朝食を提供する動きが広がっている。価格は100円が主流であるが、期間限定で1円や無料、学生だけでなく教職員も利用可能な大学もあるなど、その実施形態は様々である。

大学プレスセンター(2015)によると、「100円朝食」は1999年11月に白鷗大学(栃木県小山市)で開始されたのが日本で最初の事例のようである。また、筆者が福岡県内の大学での実施状況を各大学のWebサイトを閲覧して調査したところ、福岡県内では2010年7月に福岡大学において期間と食数を限定して実施したのが最初の事例のようである。

本学での同様の取組は2012年10月から始まったのだが、そもそもなぜ本学が「100円朝食」を導入したのか、その経緯について述べることにする。

本学が朝食の重要性を認識するきっかけとなったのは、2011年2月19日に本学で実施された大畑誠也氏(九州ルーテル学院大学客員教授)の講演会である。同講演会は、本学が2010年度に文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に選定されたことを記念して実施された。講演タイトルは「21世紀の能力 悪戦苦闘能力を身に付けよう」で、講師の高等学校長時代の学校活性化の取組を中心とした講演がなされた。特に講師の著書(2010)にある、高等学校の生徒に朝食を取らせることで健康状態の改善、授業に対する集中力の向上を実現した実践報告が大いに関心を集めた。講演会には学長を始め幹部教職員も多数出席しており、朝食の重要性に関する共通認識がこのとき形成された。

また、本学では2005年から出席管理システムが導入されており、学生の授業出席率と単位の修得に強い正の相関関係があること、および除籍退学となる学生の授業出席率が学部学年平均と比べて大幅に低いことも明らかになっていた。

これらのことから、大学事務局では、学生へ安価な朝食を提供することによって授業出席率や単位修得率が改善され、除籍退学の防止につながるのではないかとこの着想を得た。その後、事務局内で実施計画が検討され、2012年10月から「朝食キャンペーン」と称して、従来280円であった朝定食に大学が100円の補助をおこない、180円で学生に提供するようにした。この取組は学生だけでなく保護者にも好評であったため、朝

食のさらなる充実を目指して、同年11月12日から朝定食を300円に値上げするかわりに種類を1種類から3種類に増やした。

一方で学生の負担は少なくなるよう、大学から100円、保護者で組織する後援会から100円の補助をおこない、学生へワンコインの100円で提供するようにした。これが、本学が「100円朝食」を導入するに至った経緯である。

「100円朝食」の提供期間は授業実施期間中の全ての平日で、一日の提供食数に制限を設けなかったこともあり、「100円朝食」への学生の反響は絶大であった。

朝定食の利用は急増し、朝定食280円時の1日平均25食から「100円朝食」開始直後に141食と大幅に伸び、2014年度の平均食数は263食にまで増加した。

学生には大好評である「100円朝食」だが、大学および後援会からの補助を、①割引券を学生に配布、②食堂で学生が支払時に100円と割引券を提出、③食堂から月締めで割引券を大学事務局に提出、④大学事務局で確認し精算、という流れでおこなっていたため、経費精算に伴う食堂および大学事務局の事務処理負担が増大した。

また、支払時に個人が特定されない方式であるため、利用者数以外の情報が取得できず、「100円朝食」の提供が学生の生活習慣の改善につながっているのか検証ができないという問題があった。また、他大学の学生の利用の可能性や、同一日に複数回利用する学生の存在も指摘されていた。

これらの問題を解決するために、2014年4月より割引券方式に変えて、学生証のバーコードを支払時に読み取ることで本人確認と同一日に複数回の利用を防止する簡易なシステムを導入した。

同システムの概要は、①定置式バーコードリーダーを接続したノートパソコンをレジ横に設置、②支払時に学生自身が学生証表面のバーコードを読み取らせる、③バーコードの情報から学籍番号を特定、④バーコードの読み取り日時・学籍番号を簡易データベースに記録、⑤マスタ登録された本学学生以外の利用や同一日に複数回の利用であった場合はアラートを表示する、⑥システム終了時に読み取ったデータをネットワーク経由で自動送信する、というものである。

システムの導入によってスムーズな経費精算が可能になるとともに、「いつ・誰が利用したか」がデータ化されることで、様々なシステムと連携が可能となり、学生の授業出席率や成績などとの関係性を分析するこ

とができるようになった。

本稿は、2014年度の「100円朝食」の利用実態について、利用学生の属性や授業出席率・単位修得率との関係について報告するものである。

## 2. 2014年度「100円朝食」の基礎データ

2014年度は、前期（4月11日～8月7日）および後期（9月22日～2月4日）の授業期間中の月曜～金曜に、「100円朝食」を提供した。提供時間は8時から10時40分であった。2014年度の「100円朝食」利用食数の基本統計量などを、(表1)に示す。

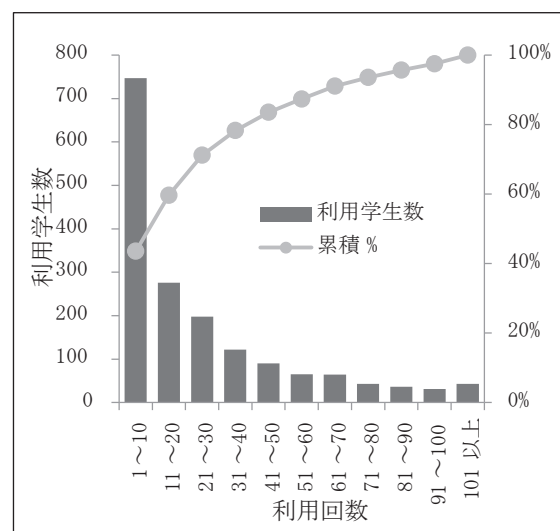
(表1)「100円朝食」利用食数の基本統計量など

提供日数	162日
提供食数	42,725食
1日平均食数	263食
最小利用回数	1回
最大利用回数	151回
平均値（利用回数）	24回
中央値（利用回数）	14回
最頻値（利用回数）	1回
100円朝食利用者数（実数） a	1,715人
全学生数 b	2,218人
100円朝食利用率（a / b）	77%

次に、学生毎に利用回数を集計し、階級幅を10回とした度数分布表（表2）、ならびにヒストグラムを作成した（図1）。

(表2) 利用回数の度数分布

利用回数	学生数	累積 %
1 ～ 10	747	43.56%
11 ～ 20	276	59.65%
21 ～ 30	198	71.20%
31 ～ 40	122	78.31%
41 ～ 50	90	83.56%
51 ～ 60	65	87.35%
61 ～ 70	64	91.08%
71 ～ 80	43	93.59%
81 ～ 90	36	95.69%
91 ～ 100	31	97.49%
101以上	43	100.00%



(図1) 利用回数のヒストグラム

利用回数の再頻値が1回であること、および利用回数のヒストグラムのピークが1回～10回で右の裾が長い分布であることが特徴である。「試しに一度食べてみました」という学生を含んではいるものの、在籍学生の77%に利用経験があることから、「100円朝食」は学生に充分認知され、大学が提供する学生支援サービスとして多くの学生に利用されているといえる。

## 3. 学生の属性を用いた分析

食堂での支払時に学生証のバーコードを読み取ることで、学籍番号と利用日時がデータ化される。これらのデータを用いて、「どのような学生が利用しているのか」を分析してみた。

まずは、学部学年別の利用者数（実数）を（表3）に、学部学年別の利用回数を（表4）にまとめた。

(表3) 学部学年別利用者数（実数）

		学部	
		経済	スポーツ
学年	1	261	280
	2	193	283
	3	209	224
	4	86	177
	なし	1	1
計		750	965

(表4) 学部学年別利用回数

		学部	
		経済	スポーツ
学年	1	6,639	10,357
	2	3,721	9,447
	3	2,990	5,612
	4	779	3,178
	なし	1	1
計		14,130	28,595

利用者数実数の学部別合計を比較すると、スポーツ学部は経済学部の1.28倍であるが、利用回数の学部合計ではスポーツ学部は経済学部の2.02倍となっており、スポーツ学部へヘビーユーザーが多いことが明らかになった。

次に、課外活動と住居形態に着目し、「課外活動（あり・なし）」と「住居形態（自宅・自宅外）」の利用者数（実数）のクロス集計表を作成した（表5）。

(表5) 「課外活動」「住居形態」の利用者数（実数）のクロス集計

		住居形態		計
		自宅	自宅外	
課外活動	あり	269	907	1,176
	なし	279	260	539
計		548	1,167	1,715

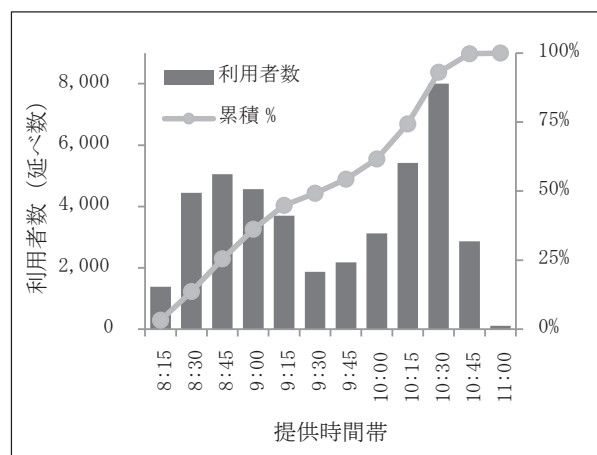
「自宅外に居住する課外活動を行っている学生」の利用者が最も多く、課外活動の充実を目指す本学の学生支援策として有効に機能しているといえる。

#### 4. 見えてきた問題点（それって朝食なの？）

「100円朝食」の食数は右肩上がりに増加していった。一方で、「100円朝食」を管轄する学生支援課職員より、「朝食を食べて1時限目の授業に出て欲しい」という本来の趣旨と学生の利用実態が異なってきたのではないかと指摘がなされるようになった。

職員の目視での感覚では、1時限目の開始前に利用のピークが1度あり、その後、1時限目の終了直前から直後にかけての時間帯が最も利用者が多いようであるとのことであった。

このことを検証するために、学生が支払時に学生証のバーコードを読み取らせた時刻を「100円朝食」の利用時刻とみなし、15分間隔（＝階級幅15分）で利用者数のヒストグラムを作成した（図2）。



(図2) 時間帯別利用者数（延べ数）

ヒストグラムから明らかなように、1時限目開始直前の8時45分と1時限目終了の10時30分に利用のピークが発生しており、最も利用者が多い時間帯は10時30分であった。10時30分に食べる「100円朝食」は朝食とは言いがたく、「100円朝食」提供の趣旨に反する利用実態が明らかになった。

このことを是正するため、2015年度は提供時間を短縮（8時～9時30分）して「100円朝食」を提供することとなった。

#### 5. 授業出席率との関係

「100円朝食」を利用する学生と利用しない学生とで、授業の出席率に差があるのかを検証してみた。検証の対象は、2014年度の経済学部1年生の2014年度通算の授業出席率とした。

対象を選択した理由は、本学が直面する様々な課題の中で、経済学部の入学定員を充足させることが最大の課題であると筆者としては考えているためであることと、単位を修得し退学を防止するためには1年次の授業出席率を高く保つことが有効だと考えるからである。

利用回数の中央値（14回）を用いて、経済学部1年生を「100円朝食」の利用回数に応じて「利用なし」「1回～14回」「15回以上」の3群に分け、授業出席率（2014年度通算）の平均値を算出したところ、「利用なし」



で79.77%, 「1回～14回」で82.73%, 「15回以上」で87.15%となった。

この3群の平均値の差に統計的に意味のある差があるかどうか検定するため、Excel2013のデータ分析ツールを用いて一元配置分散分析をおこなったところ、有意な差が見いだされた ( $F(2,319) = 5.06, p < 0.01$ )。

## 6. 単位修得率との関係

出席率との関係と同様に、2014年度の経済学部1年生の2014年度通算の単位修得率（修得単位数／履修登録単位数）に差があるのかを検証してみた。

利用回数の中央値（14回）を用いて、経済学部1年生を「100円朝食」の利用回数に応じて「利用なし」「1回～14回」「15回以上」の3群に分け、単位修得率（2014年度通算）の平均値を算出したところ、「利用なし」で74.31%, 「1回～14回」で81.76%, 「15回以上」で85.17%となった。

この3群の平均値の差に統計的に意味のある差があるかどうか検定するため、Excel2013のデータ分析ツールを用いて一元配置分散分析をおこなったところ、有意な差が見いだされた ( $F(2,315) = 6.62, p < 0.01$ )。

## 7. 考察とまとめ

「100円朝食」利用者の属性を分析することで、学部学年別の利用回数ではスポーツ学部の1年生と2年生が多数を占めることが明らかになった。また、課外活動の有無と住居形態の利用者数（実数）クロス集計から、自宅外に居住する部活学生の利用者が多いことが明らかになった。

低学年の利用回数が多いのは、1時限目から授業が始まることが多い時間割であることと、履修科目数自体が多く、月曜日から金曜日までは授業が入っているためと考えられる。

自宅外に居住する部活学生の利用者が多いのは、部活の朝練などで早朝から大学に来ることが多いこと、および強豪運動部では全国から学生が集まり自宅外に居住する学生が多くなるためであろう。

経済学部1年生を対象とし、「100円朝食」の利用回数に応じて「利用なし」「1回～14回」「15回以上」の3群に分け、授業出席率の平均値および単位修得率の平均値を算出し、どちらの平均値も3群間に有意差があることが明らかになった。このことから、「100円朝食を利用するから授業に出席して単位が取れる」と

まではいえないものの、なんらかの影響はあったのではと推測される。

本稿では、「100円朝食」の利用回数と既存データとの関連性を分析したが、「100円朝食」を継続・発展させていくためにも、「100円朝食」の利用と学生の生活実態や健康状況との関連を捉えるような仕組みを構築してはどうかと考える。

一例であるが、学生支援課が後期ガイダンスで実施している「学生生活実態調査アンケート」や、保健センターが実施している「健康診断」の問診表で、「100円朝食」の利用頻度と生活習慣や健康状況の改善への寄与具合の自己認識を継続調査することで、新たな学生支援の施策立案に寄与する情報が得られるのではないだろうか。

冒頭で述べたように、「大学が学生に対して安価な朝食を提供する」という取組が全国的に広がっているが、その利用実態を数値で表し、授業出席率や単位修得率との関係を示した事例は筆者の調べではまだあまり無いようである。本稿がその事例のひとつになることができれば幸甚である。

## 8. 付記

本学の「100円朝食」の取組は複数のメディアに取り上げられ、意図せずして大学の広報にも貢献することとなった。テレビ・ラジオなどに取り上げられた日時とメディア名を以下にまとめる。

放映などの日時	メディアなど
2012年11月12日	NHKテレビ放映
2012年11月12日	KBCテレビ放映
2012年12月1日	朝日新聞掲載
2013年1月18日	毎日新聞掲載
2013年12月10日	RKBラジオ放送
2014年3月24日	玉川大学より食堂視察

「100円朝食」を開始した直後に、4件のメディアに取り上げられている。福岡県内では福岡大学に続いて2番目に開始した本学の取組であるが、期間も食数も限定しなかったことが大きく取り上げられた理由ではないだろうか。

- 
- <sup>1)</sup> 平成25年「国民健康・栄養調査」(厚生労働省)の結果によると、朝食の欠食率は、男性14.4%、女性9.8%であり、性・年齢階級別に見ると、男女ともに20歳代で最も高く、男性で30.0%、女性で25.4%である。また、20歳代男女の朝食欠食率が年齢階級別で最も高い状態は平成15年から継続しており、若者が朝食を食べない状態が慢性化していることがうかがえる。

#### 参考文献

- 1) 大学プレスセンター (2015) : 大学通信 「「100円朝食」で学生の健康をサポート」 2015/05/09,  
<http://www.u-presscenter.jp/modules/bulletin/index.php?page=article&storyid=7932>  
(閲覧日: 2015年7月14日)
- 2) 講師の著書 (2010): 大畑誠也, 答えは現場にあり,  
ばるす出版, pp50-65